

# 学校行事

文化的行事

指定校番号	28039	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立手城小学校	校長	宮本 加代子	生徒指導主事	澤田 実
-----	-----------	----	--------	--------	------

**取組事例名 『学習発表会』**

**取組のねらい『キーワード 一点突破』**

2 学期の積極的生徒指導の取組として、学習発表会を選択し、教育資源を集中させた。下記のような資質・能力を向上させ、教育活動全体に展開していくことをねらった。

- (1) 自己肯定感
  - ①大人や上級生からほめられたり、下級生から認められたりする経験を通して、自尊感情を高める。
  - ②合奏など、一人一人が違う役割を分担する体験を通して、自己存在感を高める。
  - ③ねばり強く練習し、演奏技能が徐々に向上する経験を通して、自己効力感を高める。
- (2) 社会的資質
  - ①ルールに則って行動することの大切さを体験させることにより、規範意識を醸成する。
  - ②感性を豊かにすることにより、相手の気持ちを思いやったり、協調したりする力を育てる。
  - ③主体的・協働的に学ぶ経験を通して、コミュニケーション能力を伸長する。

**取組の具体的内容『キーワード スマールステップ』**

- (1) 目標
 

学年課題をもとにスローガンを設定した。児童の意欲が継続しやすいように、目標をスマールステップに細分化した。
- (2) 評価
 

自己指導能力を育成するため、授業の終末には、振り返りの時間を確保した。
- (3) 見える化
 

各学年の達成状況を図 1 のように体育館壁面に掲示し、系統性を持たせたり、お互いに参考にし合ったりして、組織的に取り組んだ。



図 1 体育館掲示

**取組の課題・創意工夫『キーワード 関わり』**

- (1) 異学年交流
 

学習発表会のリハーサルとして、校内発表会を実施した。終了後は、1・6年、2・5年、3・4年の各兄弟学年に対して、良かった所を図 2 のように手紙形式で書いた。児童の自尊感情を高めるため、手紙を冊子として綴じ、お互いに贈り合った。児童は、休憩時間等に、熱心に手紙を読み、喜び合っていた。手紙の中に、同じ登校班やたてわり班の児童の名前を探し、会った時にお礼を言うなどして関わりを深めていった。
- (2) 保護者連携
 

学習発表会に向けて、リコーダー練習など、家庭学習に取り組んだ。信頼関係を築くため、連絡帳に書いたり、電話連絡したりして、児童のがんばりや成長を共有した。学習発表会終了後は、図 3 のように保護者アンケートを実施し、学級活動や特別の教科道徳で活用した。

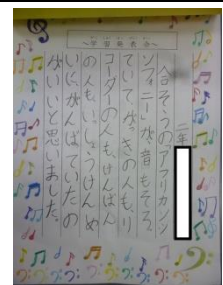


図 2 児童の手紙

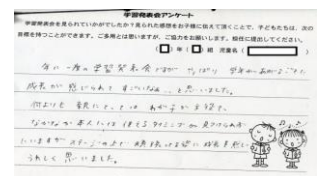


図 3 保護者アンケート

## 取組の成果（効果）『キーワード 社会性』

図4は、アンケート「チャイム席を守っている」、「だまってそうじができています」について、肯定的回答をした児童の割合の変化を表したものである。

### (1) 時間を守る

学習発表会に向けて、体育館と音楽室の教室使用について各学年に割り振った。限られた貴重な練習時間のため、時間を大切にしようとする意欲が高まった。学年で練習するため、他学級に迷惑をかけるはいけないという意識も高まった。

### (2) 一生懸命掃除する

目標に向けて粘り強く努力したり自分の出番を黙って待ったりする体験を通して、耐える力が伸長した。また、集団行動を通して、学校や学年・学級への帰属意識も高まった。

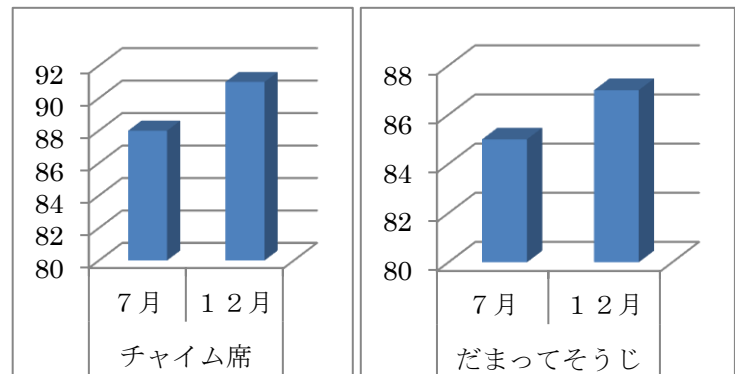


図4 児童アンケート結果

## 今後の展開『キーワード 広がり』

### (1) リーダー育成

児童が主体的に学べるように、活動意欲の高い児童を合唱・合奏リーダーとして指名し、教え合う取組を行った。児童の意欲は、ますます高まり、合唱クラブを結成するまでになった。

今後は、この成果をあいさつ運動などに生かしていく。あいさつリーダーを指名し、学校にあいさつをあふれさせることにより、支持的な学校風土を醸成していく。



図5 リーダーがつけるカード

### (2) 地域

学習発表会の成果を生かして、ふくやまジュニアミュージックフェスティバルに参加した。ふくやま芸術文化ホールの大観衆の前で演奏し、児童に大きな達成感を体験させることができた。表彰も受け、自尊感情が高まった。福山コーラスフェスティバルに出演することになり、テレビ局の取材を受けるまでになった。

今後は、活動をさらに広げ、地域の方々を招待する感謝祭で合奏を披露する。また、3学期の取組として、6年生を送る会で学年の出し物を発表し合ったり、卒業証書授与式で感動の歌声を響かせたりしていく。



図6 ミュージックフェスティバル

## 他校へのアドバイス『キーワード 組織』

本校学習発表会が成功した大きな要因は、学年団で取組んだところにある。それぞれの学級の良さを組み合わせることにより、大きな成果を上げることができた。学年単学級の小規模校においても、学年を組み合わせたり、全校合唱したりする等して、組織的に取り組むことが効果的であると考えられる。

指定校番号	28045	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	沖野 稔則	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『全校合唱』**

**取組のねらい『キーワード：自己肯定感を高める』**

◎全校児童が歌声を合わせることの楽しさ、響き合いの美しさを共有する活動を通して、協調性、感性、自信感を育て、自己肯定感を高める。

**取組の具体的内容『キーワード：自信をもたせる練習と披露の場の設定』**

- (1) 「音楽朝会」を毎月1回（原則第4火曜日：10分間）実施…全校児童が体育館に集い全校合唱
  - ・年度初めに、「音楽朝会」の年間計画（曲目、ねらいと内容）を担当が提示…CDも一括配布
  - ・音楽委員会児童が学級用掲示歌詞カードを作成し配布
  - ・放送委員会児童が昼の放送時に曲を紹介
  - ・「音楽朝会」までに学級で練習し、歌詞を覚えるよう担任が指導
  - ・5・6年生から「音楽朝会」の『ステージメンバー』を募集



- (2) 「歌声タイム」を毎週月曜日の朝に設定し、担当が放送により「音楽朝会」で合唱する歌の指導…児童は各教室で合唱

- (3) 全校児童が「全校合唱」
  - ・歌声タイムや音楽朝会、全校音楽（音楽授業）で練習してきた曲を学習発表会で保護者や地域の方に披露



**取組の課題・創意工夫『キーワード：さらなる自己肯定感の向上に向けて』**

- 「音楽朝会」に向けて、5・6年生から、『ステージメンバー』を募集し事前に練習する。当日は、ステージで、歌い方の手本を示し、みんなからの称賛を受け、自己肯定感を高めることにつながる。
- 学習発表会の全校合唱に向けて、5・6年生から『ソロメンバー』を募集し事前に練習する。全校合唱の一部に、『ソロメンバー』だけで歌唱するパートを取り入れる。
- 「歌声タイム」のときも、各学級の合唱の様子を担当が見て回り、良かった点を放送で伝える。
- 学習発表会では、保護者や地域の方から、メッセージカードに感想を書いていただき掲示した。
- 「音楽朝会」「歌声タイム」「全校音楽」「ステージメンバー」「ソロメンバー」等、一連の活動を全校でバックアップしていることが、成功につながっている。



## 取組の成果（効果）『キーワード：自己肯定感・自己有用感の向上』

○保護者や地域の方から、「全校合唱」を聴いて感動したという声をたくさんいただいた。

<メッセージカードより>

全校のみなさんへ  
みなさんのもつ歌の力はすごいですね。  
心が洗われました。

全校児童のみなさんへ  
全校合唱とてもすてきでした。気持ちのこめられた歌声に感動して涙が出ました。

廿日市小学校のみなさんへ  
子どもたちの一生懸命がんばる姿、心をこめて歌う姿に感動して涙が出ました。  
すばらしかったです。



○『ステージメンバー』や『ソロメンバー』には、日頃、登校を渋ることのある児童や遅刻の多い児童、特別支援学級児童なども自分から進んで参加しており、事前に渡している練習日程を見て、遅れないように練習に参加している。本番もみんなからの称賛を受け、よい表情をしていた。

○他の取組とも合わせ、自己肯定感、自己有用感が高まった。

- ・6月基礎・基本定着状況調査…自己肯定感82％，自己有用感72％
- 1月学校評価児童アンケート…自己肯定感85％，自己有用感79％

## 今後の展開『キーワード：感謝と次の学年への準備』

- ・1・2月の「音楽朝会」は、卒業生やお世話になった方への感謝の気持ちをこめて、『さくら』を合唱する。3月は、6年生を送る会や卒業式、離任式で、心をこめて合唱する。
- ・年度末に、「廿小アシスタント」の募集（現5年生）と紹介を行うことを通して、新6年生に上級生としての役割や責任を意識させ、自己肯定感、自己有用感をさらに高める。  
→教務部と生徒指導部との連携
- ※「廿小アシスタント」は始業式の朝、「廿小アシスタント」ネームホルダーをつけて、低学年児童のクラス替え名簿から名前探しを手伝ったり、新靴箱や新教室へ誘導したりする。

## 他校へのアドバイス『キーワード：全校での取組』

- ・年間通じて、継続して計画的に進めることが重要であるため、全校で協力体制を築き、取り組むことが必要である。

指定校番号	28048	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	林 真由美	生徒指導主事	新居 美保
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『平良っ子まつり』

**取組のねらい** 『自ら考え、行動し、みんなで伸びる平良っ子』

- ふれあいの場とする。
- 練習や準備を通して、表現力やかかわり合う力を育てる。
- 児童の自主的な活動意欲を高める。

**取組の具体的内容** 『進んで、かかわり合い、学び合い』

- 交流の場の設定
  - ・ 委員会による体験コーナー  
異学年との交流（1～6年生）
  - ・ 来校された地域の方へのおもてなし（4年生）
- 児童が意欲的に活動し、自信をもてる場の設定
  - ・ 委員会活動に係る全校児童に向けての展示・発表・体験コーナー等担当での活躍
  - ・ 委員会コーナー参加の下学年の喜びや満足感
  - ・ 地域の方から頂いた温かい言葉
- 互いに学び合える場の設定（5・6年委員会活動，4年総合的な学習の時間）
  - ・ 話し合い活動の充実
  - ・ 準備での協力
  - ・ 本番での役割分担

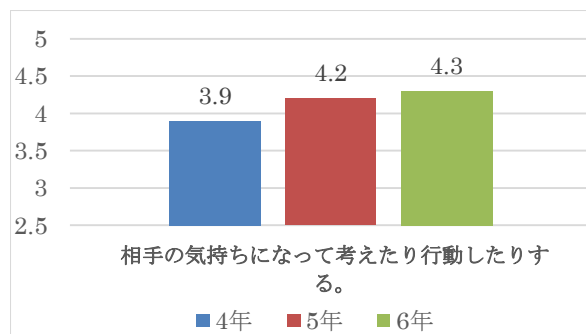
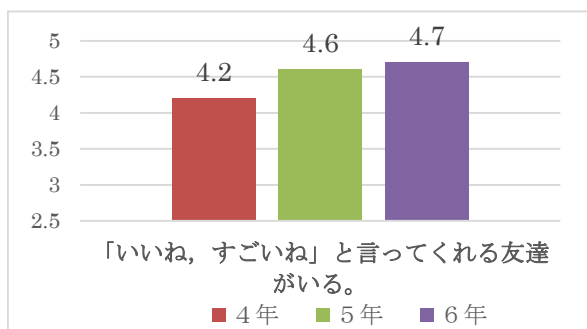
**取組の課題・創意工夫** 『生かす』

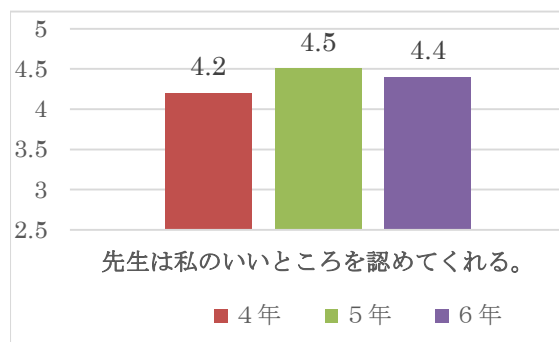
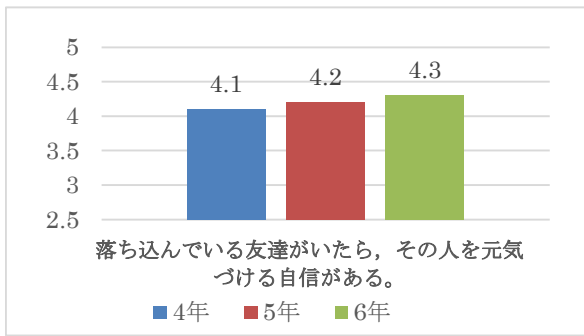
- 限られた時間
  - ・ ねらいの明確化，共通認識を図った「付けたい力」の設定
  - ・ 教職員の事前打ち合わせ，準備
  - ・ 児童の話し合い，準備時間の確保（5・6年委員会活動全3時間，4年総合的な学習の時間）
- 限られた材料
  - ・ 身近にあるもの，常時活動で使用するものの準備，収集
  - ・ 教職員の事前準備，打ち合わせ，時間
- 学びを生かす
  - ・ 計画に基づいた活動
  - ・ 教科での学習内容，方法を生かす。

**取組の成果（効果）** 『みんなと一緒になら、やればできる。』

第2回アセス（11月）の結果から、「他人（友達・教師）から自分は認められている。」と感じている児童が多いことが分かった。また、次のグラフから、「友達のことを考えて行動できる。」と感じている児童が学年が上がるごとに多くなっている。

これらの結果から、この取組を通して、自分のよさを認め、他者のことを考えながら行動できると感じている児童が多くなることが分かった。





<取組の様子>

「平良っ子まつり」  
委員会コーナー

話し合いながら、準備を進めています。



4年生は、総合的な学習の時間に、「ボランティア」について学習しました。学んだことを生かして、休憩に来られた方に、「どうぞ。」とお茶のおもてなしをしています。



5,6年生が作り方や遊び方を教えます。アナウンス体験や、しおり・学校掲示物、そうじ道具などを作る工作、豆つかみや運動など多彩なコーナーがありました。



**今後の展開『つなげる』**

- ・ 児童が主体的に取り組める機会や場の設定を計画的に行い、次の学びにつなげる。
- ・ 異学年、地域・保護者の方との関わり合いの場を設定する。
- ・ 学びを深め、学びをつなげる話し合い活動の充実を図る。

**他校へのアドバイス『きっかけづくり』**

- ・ 児童が自分達で考えて活動しようとする機会を日常的に仕組んでいく。
- ・ ねらいを明確にし、児童の実態に即した活動計画を立てる。
- ・ 指導することを明確にした上で、児童に任せる活動を設定する。  
これらを念頭に置いて、児童自らが「考えるきっかけ、動くきっかけ、関わるきっかけ」をつくり、主体的に活動する児童を育成していきたい。

指定校番号	28055	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長	佐々木 亮	生徒指導主事	細川 隆典
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『夏季マーチングバンド合宿』**

**取組のねらい『キーワード 人間関係づくり・自主性』**

- 集団生活を通して、規律や協力することの大切さを学び、協調性や連帯意識に基づくよりよい人間関係を育てる。
- 3泊4日の長期の合宿で行われる集団生活を通して、児童の自主性をはぐくむ。
- 普段できない活動を通して、合宿を支えてくださる人々に感謝の念を持たせることで、子供達の道徳性を高めていく。
- バンド練習を集中して行うことで演奏技術を高める。音楽活動を通して心を豊かにし、感動を味わう。

**取組の具体的内容『キーワード 集団活動による人間関係づくり』**

平成 25 年度から始まったマーチングバンドの合宿は、翌 26 年度から山・海・島の体験活動として、5・6年生の参加によって行われてきた。今年も夏季休業中に3泊4日の日程で、校区内にある川・森・文化交流センターで合宿を行った。マーチングバンドの合宿は、児童の道徳性を育成するために、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動の豊かな体験活動を積極的に取り入れてきた。バンド練習に関しては、楽器のパートごとに分かれて切磋琢磨する演奏指導を行い、合宿の最終日には、地域の方や保護者の方に日頃の感謝の気持ちを伝える「ありがとうコンサート」を開催し、コンサートの中では練習の成果を発表するだけでなく、合宿を行うことができたことに感謝する気持ちを、多くの観客の前で自分の言葉で伝えている。コンサートは成功に終わり、子供達は満足感や達成感をもって本年度の合宿を終えることができた。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 様々な活動』**

- マーチング練習をメインとしながら様々な活動を仕組む
- 児童に関して
    - ・楽器のパートごとに分かれた楽器練習，大学生との演奏会
    - ・パートリーダーを中心にした話し合い活動，協力しての活動，規律ある生活
    - ・部屋での寝食を伴った集団生活
    - ・自然の中での川遊び，飯盒炊さん，星空観察
  - 保護者・地域に関して
    - ・保護者と連携しての昼食づくり，保護者の演奏会の鑑賞
    - ・大学生による児童への楽器の指導，専門的な技術を持った指導者による演奏指導
    - ・地元施設を利用した合宿活動，地域の方々の演奏会の鑑賞





### 取組の成果（効果）『キーワード 満足感』

具体的に合宿後のアンケートから、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる。」という項目では、児童の100%が肯定的評価を行っている。「自分とちがう意見や考えを受け入れることができる。」も同様に100%の肯定的評価を行った。「責任を果たすこと」「人を受け入れること」は、人間関係づくりの基本でもあり、合宿の成果があったと言える。アンケートの自由記述の中には「いろいろ教えてもらったり、支えてもらったりした人に感謝したい。」という感謝の気持ちが出ているものが多くあり、子供達の道徳性も高まってきた。

4日間を通して、寝食を共にし、指導をしていただいたボランティアの大学生とは、心が通い合う人間関係になることができた。また合宿の生活から、普段の生活を多くの人々に支えてもらっていることに気付いた子供達が多かった。



### 今後の展開『キーワード 発展的な継続』

夏季マーチングバンド合宿に代わる他の活動も検討したが、来年度も今年度に引き続き、夏季マーチングバンド合宿を実施する予定である。次年度もマーチング練習をメインに据えながら、他の活動を充実させ、人間関係づくりや児童の自主性を高めていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 活動・保護者・地域』

本校ではマーチングバンドによる活動をメインの活動として合宿の中心にすえている。合宿の中心を充実させることによって、他の活動も活性化できると考えている。また保護者や地域と関連した活動の工夫によって、子供達は夏季マーチングバンド合宿が多くの身近な人々によって支えられていると実感できる。

指定校番号	28069	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂中学校	校長	丹 孝子	生徒指導主事	奥村 聡
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『生徒が輝く文化祭』**

**取組のねらい『キーワード 文化祭を成功させよう』**

生徒が主体的に活動できる活躍の場を様々な場面で設定することにより、自己有用感や達成感を得られるようにする。また、落ち着いた雰囲気の中で文化祭に臨み、他学年や他クラスの発表を静かに聞くことができる鑑賞態度を身につけさせる。

**取組の具体的内容『キーワード 活躍の場の設定』**

○文化図書委員会を中心にして 2016 年度文化祭の『スローガン』決定。

決定したスローガンを全クラスでポスターにし校内に掲示。



○縦割り学級による合唱交流会。

3年生の文化図書委員が司会進行をし、学年間での交流を行う。会場は体育館・第1音楽室・第2音楽室の3か所で行う。交流後は各クラスの指揮者が講評を述べる。



○文化祭ステージ発表の行われる前、1週間にかけて着ベル・身だしなみの2点に関してチェックを行う。

着ベル点検 - 代議員会 (各クラスの代議員が点検する)

点検時間…1時間目開始時～6時間目開始時まで。文化祭のステージ発表の部においては、全3回の休憩終了後に行う。

集計方法…その日の着ベル点検結果は、その日の6時間目の終了直後に代議員が点検表(事務室前)に記入する。

身だしなみ点検 - 保健体育委員会 (各クラスの保健体育委員が点検する)

点検時間…朝学活。文化祭のステージ発表の日は、開会式の前に一斉に行う。

集計方法…その日の身だしなみ点検結果は、その日の6時間目の終了直後に保健体育委員が点検表（事務室前）に記入する。

### 取組の課題・創意工夫 『キーワード すべての委員会で文化祭をつくりあげる』

縦割りの合唱交流会を、司会進行を文化図書委員会、講評を学級の指揮者とし、交流会の運営全体を生徒主導で開催した。

また各委員会が文化祭にそれぞれ主体的に取り組めるように、役割の分担をした。「時間を守る」意図の着ベルは代議員会、「容儀を整える」意図の身だしなみは保健体育委員会、文化祭会場を含めた美化整備は美化委員会、というようにそれぞれの委員会ごとに分けた。

点検活動においては、概ね委員会の生徒が判断したが、いくつかのケースで判断をできないことがあり、担任や教科担任の手助けが必要であった。また、身だしなみの点検においては遅刻者の扱いで判断に迷う部分があったので、今後はそのあたりのところもあらかじめ明確にしておく必要がある。

### 取組の成果（効果） 『キーワード 生徒同士の働きかけ』

縦割りの合唱交流会では、文化図書委員の生徒だけではなく3年生が交流会をスムーズに進行するようにリードした。上級生は下級生の見本となるべく意識を高め、下級生は上級生の姿や歌声から学ぶべきものを見出すよい機会となった。

合唱コンクール当日、休憩後の集合・着席が委員会を中心とした生徒の声かけにより比較的スムーズにできた。ほとんどのクラスで代議員が中心となり生徒同士の積極的な働きかけができていたと思う。

「時間を守る」ということにおいては多くの生徒が意識をし、実行に向け努力していた。また、「容儀を整える」ことについては、最初の呼びかけから最終目標をステージ発表のステージ上であることを意識させ、クラスの中の生徒同士がお互いを点検し合い、できていない生徒に声をかけるといった生徒同士の働きかけができていた。

### 今後の展開 『キーワード 生徒主体での活動を増やす』

学校生活における様々な場面で取り組みが活かされるように生徒主体で活動する場面を増やしていきたい。教員主導ではなく生徒のほうからの呼びかけで、今まで以上に全体が意識をして動いていけるようになればいいと思う。また、学年ごとに集まる機会も同様に、身だしなみを正すことも含めて生徒による呼びかけを中心にして進めていけるようになっていきたい。そしてそういう機会を増やすことによって、リーダーシップのとれる生徒を育てていきたい。

3年生は卒業式を、1・2年生は修了式を今年度のゴールととらえ、何らかの形で達成感を感じることができるよう指導していきたい。

### 他校へのアドバイス 『キーワード ゴールを意識した取り組み』

他校にアドバイスできるようなことは特にないが、本校では自己有用感や達成感の向上を目指し、「文化祭の中で、どれだけ生徒が活躍できる場を設定できるか」という発想からこの取組が始まった。

縦割り合唱交流会では3年生がリーダーシップを発揮し自信を持つことができたし、1・2年生については自分たちが目標とすべき姿を目の当たりにできたこともよかったと思う。

文化祭というと、どうしても生徒の意識の中にお祭りのような気分があるため、「時間を守る」ことや「容儀を整える」ことについて1週間前からの意識付けを目的に始めた。取組期間からすでにコンクールが始まっているという意識を持った生徒が多数いて、しっかりとゴールを意識させることができたのは良かったと思う。

指定校番号	28080	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立己斐中学校	校長	藤岡 博幸	生徒指導主事	坂本 祐資
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『文化祭』(ステージの部、展示の部)

**取組のねらい** 『キーワード 協力・交流・共感』

1. 全校生徒が目標に向かって協力して取り組み、地域との交流を深め、文化的な意識を高める。
2. 合唱の取組を通して、学級の仲間や他の学年のよさを認め合い、達成感をあじわう。
3. ステージ発表や展示発表を通して、豊かな表現力、また鑑賞する力を養う。

**取組の具体的内容** 『キーワード 団結・自己肯定』

1. ステージ発表の部<広島市西区民文化センター>
  - (1) クラス合唱
  - (2) 学年合唱
  - (3) 全校合唱
  - (4) 教員合唱
  - (5) 吹奏楽部演奏
  - (6) ワークショップ西風舎さんの合唱とメッセージ



3年生 学年合唱



2年生 クラス合唱

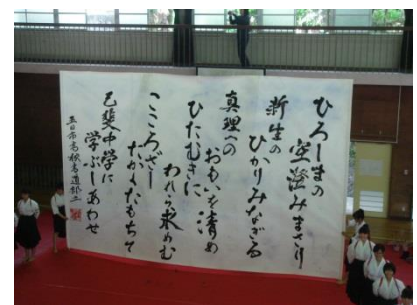
2. 展示発表の部<本校体育館>
  - (1) 美術科
  - (2) 国語科
  - (3) 社会科
  - (4) 家庭科
  - (5) ルーム<特別支援学級>
  - (6) 美術部
  - (7) 生徒会～楽しい学校づくり標語
  - (8) PTC (五日市高校書道部)



美術科



ルーム <特別支援学級>



PTC (五日市高校書道部)

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 自主的な生徒の活動・交流』

### 【課題】

- ・ステージ発表において、昼食場所がないために午前中のみ開催にならざるを得ない。その結果、短い時間に多くの内容が盛り込まれ、時間調整のためにカットせざるを得ない部分が生じた。
- ・ステージの看板設置およびリハーサルが前日の午後からの開始になるため、リハーサルの終了が夕方遅くになってしまった。

### 【創意工夫】

- ・生徒会執行部の生徒によって企画及び運営をおこなった。
- ・クラス合唱の取組のなかで《縦割り交流会》や《学年交流会》を通して、他のクラスや他の学年と評価しあいお互いに高めあうようにした。
- ・あらたに教員合唱を取り入れ、教員集団のがんばりも見せるようにした。
- ・障害者就労支援施設「ワークショップ西風舎」の人たちの合唱を聴き、またメッセージを受けることを通して、障害者理解を進めた。

～生徒作文から～

- ♪西風舎さんの手紙（メッセージのこと）で感動して思わず泣いてしまいました。
- ♪最優秀賞は取れなかったけれど、クラスみんなでひとつになれて、とても楽しかった。
- ♪悔いはない。でも、もう練習せんかって思ったらいやだなあ。
- ♪時々、意見が合わず喧嘩のようになることもありましたが、この曲を歌うと元気が出ます。
- ♪クラスのみなどとここまでがんばってきて、本当によかったなあと思います。
- ♪音程をとるのが難しかったり、声が出なかったこともあったけれど、みんなで助け合ったことで乗り越えることができました。

## 取組の成果（効果）『キーワード 共感的な人間関係』

- ・保護者対象の学校評価アンケートのなかの「学校は、行事に生徒が主体的に取り組むように努めている」という設問に対して、「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」という肯定的な評価が98%を上回った。
- ・どのクラスも、生徒どうしの関係がより深まり、協力して課題を解決していこうとするようになった。
- ・人の話を聞くという場面で、話をする人のほうをしっかりと向いて、聞けるようになった。

## 今後の展開『キーワード 当たり前のレベルアップ』

- ・「聴くときのマナー」とか「服装を正そう」といったことは、文化祭のときに限ったことではなく、平日頃からできているようにしなくてはならない。さらに、本校で進めている『あ・じ・み（あいさつ・じかん・みだしなみ）』の取組につなげ、本校の「当たり前のことが当たり前に見える己斐中」のレベルアップをはかっていきたい。
- ・教員間における共通理解を進め、日ごろの授業や他の行事においても、生徒自らが考えて、協力し、課題解決をしていく場面を設けていくことが必要である。

## 他校へのアドバイス『キーワード 基底に生徒指導』

- ・いくら内容のある話をして、生徒の方に「聞こう」という姿勢がなくては、生徒のものになっていかない。学習に取り組もうとする自主的な態度を培うことは、指導を進めていく前提ではないだろうか。生徒にとって学習しやすい環境を整えて、落ち着いた生活を送らせることに、生徒指導の意味があると思います。

指定校番号	28086	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

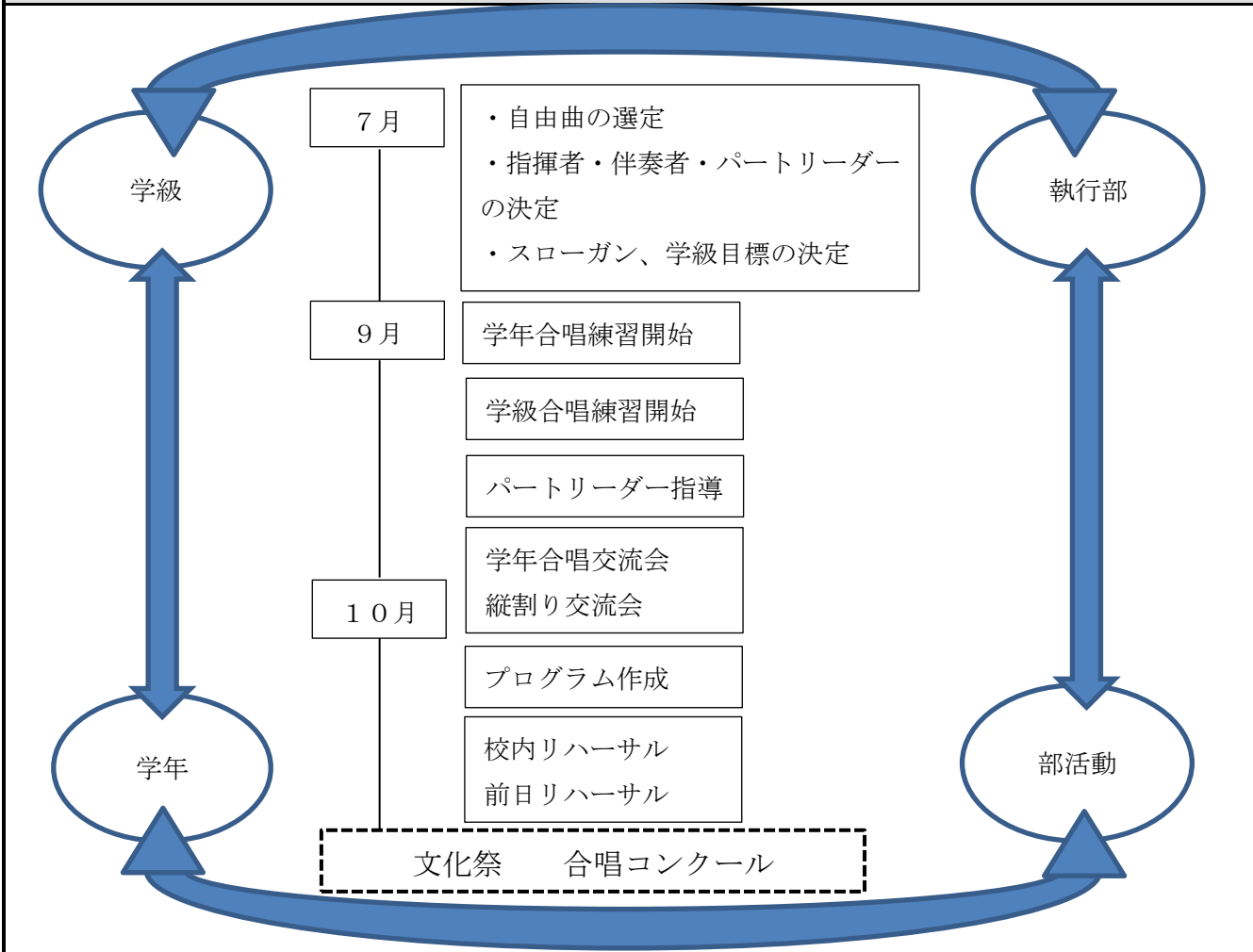
学校名	広島市立五日市観音中学校	校長	大下 茂	生徒指導主事	綿田 圭亮
-----	--------------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『文化祭 合唱コンクール』**

**取組のねらい『キーワード 努力の証～仲間の想いと共に～』**

- 学級における合唱への取り組み、文化系クラブにおける活動を通して、生徒個々の積極性・独創性を引き出すとともに、生徒相互の協力する姿勢を養い、生徒の自治的能力の向上を図る。また、文化的行事への意識高揚を図る。
- 学年内、および学年を超えた交流を行い、互いに高まり合う生徒の育成を図る。

**取組の具体的内容『キーワード 繋がる』**



縦割り交流会



学級練習の様子



当日クラス発表 (上) 学年合唱 (下)



文化部の発表 家庭科部 (左) 吹奏楽部 (右)



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 仕組む』

○生徒の自治能力を高めるための仕組

教員はリーダーと打ち合わせを行い（リーダー指導）、できるだけ全体への直接指導をしない。そのことによってリーダーを支える仲間作りへつなげる。

○世論づくり

日頃の何気ない会話や、生徒との個人ノート（生活ノートのようなもの）へのコメントなどから一人ひとりの考えを引き出し、雰囲気づくりをする。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自尊感情』

○文化祭当日に行った保護者、地域の方のアンケートからは、生徒への激励や感謝などの声が多く寄せられ、「学校だより」に掲載した。

地域の方の声

色々な個性を持ったこども達がひとつになって歌いきる姿。こうして色々な困難、悩みを体験していく過程がとても大切な時期だと感じさせられました。一つ一つ乗り越えて成長して欲しいです。一生懸命な姿に感動！ありがとうございます！

○学校評価アンケートの結果より

「体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく参加している」

肯定的評価	生徒	保護者	教職員
平成28年度12月	86.4	90.5	97.0

3年生においては、H27年12月では、88.3%。H28年7月では89.7%。H28年12月では92.2%という変化が見られ、最上級生としての責任感や誇りが増してきているのではないかと考えられる。

「楽しく学校にかよっている」

肯定的評価	生徒	保護者	教職員
平成28年度12月	86.0	89.4	97.0

生徒の肯定的評価の内訳

1年生・・・87.8%

2年生・・・83.4%

3年生・・・87.8%

※3年生においては、H28年7月と比べ、5.2%も向上した。

アンケート結果より、いずれも高い数値を示した。3年生の生徒については、7月の結果より高い数値となり、自尊感情の高まる取組みにつながっているのではないかと考えられる。

## 今後の展開『キーワード 継続』

○生徒会活動やその他の行事においても、縦割り交流の取組みなどを意識し、生徒個々の積極性や生徒間の協力、生徒の自治的能力の向上を図ると共に、自尊感情を高める取組みを継続して行うこと。

○行事と日常生活を結び付けていく取組み（学級づくり）を担当が中心となり、学校全体で進めていく。

## 他校へのアドバイス『キーワード 伝統の力』

学年の枠を越えた縦割り交流会は、3年生のリーダーを中心に運営している。自分たちの手で行事を作り上げていく姿を、1・2年生が見ているため、各学年に応じた自治能力が養われている。同時に、自尊感情の高まりにもつながり、とても良い取組となっている。

指定校番号	28092	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立新市中央中学校	校長	門田 剛年	生徒指導主事	高地 浩司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『文化祭の向けての取組』**

**取組のねらい 『キーワード 最高の笑顔と思い出』**

生徒が主体的に取り組むことで、達成感をもつことで最高の笑顔になり、思い出となるような行事にしていくことをねらいとした。

文化祭テーマ

**「青瞬～今この一瞬に最高の笑顔と思い出を」**

**取組の具体的内容 『キーワード 責任をもつ』**

3年生は、今までで最高の文化祭にしたいという願いから、ミュージカルに挑戦した。分担を細かくし、責任感をもたせることで、よりよい演技や準備を行うように仕組んだ。

2年生は、チャレンジウイーク（職場体験学習）の発表を生徒全員に分担することで、より責任感をもたせた。

1年生は、いじめを扱った劇を通して、仲間の大切さを学ばせるとともに、全員が参加できるように、分担をした。



大道具（絵）



衣装



台詞練習



ダンス練習

**取組の課題・創意工夫 『キーワード 時間の確保』**

すべての活動時間が放課後ということもあり、教員の負担が増えた。来年度以降、時間の確保をどうしていくかが課題である。その限られた時間の中で、教職員が細かに分担をし、計画をたてていくことで素晴らしい発表となった。

教員も分担をし、それぞれの部署で責任をもって取り組んだことで、生徒の達成感を高めることができた。

**取組の成果（効果） 『キーワード 生徒指導の3機能』**

自分の役割をきちんとはたすことで、自己肯定感を高めることができた。

自分のもたされた役割を責任をもって取り組むことで自己決定の場となった。

仲間と協力して取り組むことで、共感的人間関係を高めることができた。また、教職員も生徒と一緒に活動していくことで生徒との共感的人間関係も深まった。







	1学期	2学期
安心して生活できる 学校である	64%	82% +18
学校に満足している	76%	82% +6
自分にはよいところ がある	69%	69% ±0

生徒アンケートより

※「自分にはよいところがある」項目は、高まっていない。行事では、頑張りを見せているが、普段の学校生活の中で、生徒を頑張らせる取組が弱いと考えられる。

### 今後の展開『キーワード 行事から授業へ』

行事では、一致団結して素晴らしい発表を創ることができてきた。しかし、授業の中では受け身的な態度の生徒が多い。授業の中でも、生徒指導の3機能を生かした取組につなげていくことで、主体的に学ぶ生徒を増やす。そのことで、学力を高めていく。

授業づくり

1. 意欲・関心のもてる学習課題を設定する
2. 自分の考えや他者の考えを書かせる
3. わかりやすく伝えるために、ペア・グループ学習を設定する



	タイプⅠ	タイプⅡ	全体
国語	73.8 ( 2.0)	55.2 (-5.4)	70.3 ( 0.6)
数学	66.9 (-2.7)	50.9 (-6.4)	63.2 (-3.6)
理科	50.1 (-4.3)	45.1 (-3.2)	48.0 (-3.8)
英語	74.6 ( 2.0)	54.3 ( 1.3)	71.4 ( 1.8)

平成28年度広島県「基礎・基本」定着状況調査 県平均値差

### 他校へのアドバイス『共有』

行事を成功させようとする、莫大な時間がかかります。教育課程の限られた時間の中で、生徒たちに充実感をもたせるためには、事前の計画が大切だと思います。

達成感・充実感をもたせる→いつまでに何ができる→計画の見直し・変更は という流れで考えていけば良いと思います。

職員室の中で、子どものためにどんな話を我々教職員がしているか。会議がなくても、その場で教職員が共有できるように話をすることが前に向かって進んでいけることだと思います。

その潤滑油となるのが、生徒指導主事の役割の1つであると思います。

指定校番号	28111	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	村田 聡之	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『吉中太鼓』**

**取組のねらい『キーワード 自己存在感を高める』**

吉中太鼓は今から30年前、「荒れた学校の立て直しと居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものです。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付かせるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、吉中太鼓を通じて自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、「心で打つ太鼓」を目指しています。



**取組の具体的内容『キーワード 主体的な学び』**

太鼓の練習は、総合的な時間を利用し、6月からスタートし、3月(12月は無し)まで、毎週学年に応じた練習を行っています。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表しています。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加しています。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
尾道トラック祭り(9月)	吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)
尾道青少年健全育成大会(11月)	バチの受け渡し式(3月)	



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え課題を持って練習に励んでいます。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 継承』

現在の3年生が30期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけではなく、メインで指導している職員も本校の在職期間が長く、次の指導の後継者に毎年悩んでいる。

生徒については、毎年3月に「バチの受け渡し式」を通じ、儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。



## 取組の成果（効果）『キーワード 太鼓が人を変える』

3年生になり、人前での発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っている。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍するすべての生徒のあこがれのリーダーへと成長している。



## 今後の展開『キーワード 吉和中で学んで良かった』

ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。



## 他校へのアドバイス『キーワード オリジナル』

ひとつの行事を継続することの大切さと、自分の学校にしかできない学びを大切にしたい。

校番	32	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	櫻田隆紀
-----	--------	----	------	--------	------

**取組事例名 『平成28年度 沼南祭・体育祭』**

**取組のねらい『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』**

「沼南生」としての自覚を持ち、集団の中でのルールを守り、規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

**取組の具体的内容『キーワード 自己存在感を確認する』**

6月の沼南祭（文化祭）では、家政科は、3年間の集大成をファッションショーでアピールし盛り上げる。そのファッションショーに家政科の下級生が憧れる。そうして、目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科は、3年生の4つの課題研究班が、生徒それぞれの役割をステージで堂々と発表した。普通科は、1年生が英語劇「桃太郎」、2年生が英語劇「白雪姫」、3年生が創作演劇「シンデレラ」を熱演し、拍手喝采を浴びた。小・中学校の時に不登校だったり経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ、鍛え、達成感を味あわせ、力と自信をつけさせる指導を行った。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 声を出して自己アピールする、他者を承認する』**

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。  
各集会や授業の始まり終わりで、心を一つにした挨拶を行っていく。

**取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感、自己の所属の確認と他者の承認』**

体育祭の入場行進を、今年は採点種目にした。各学年で行進の練習を行った。本番では、行進が始まる前に、3年生が全員で円陣を組んで「団結の雄叫び」をあげた。そして見事に行進も種目も優勝した。途中、地震で一時中断したが、1年生も2年生も、自分の学年の為に全力を出している姿と顔が輝いていた。ソーラン節では、有志が集まり団長の生徒会長をたて、練習を重ねるごとに規律ある集団になっていった。



### 今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み、全学年で徹底していく。

授業はもちろん、教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 成功体験の積み重ね、自己有用感、自己達成感』

すべての生徒に、自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね、自己肯定感と自己有用感を高めていく。これは＝為すことによって学ぶ＝「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。

ただ、学校組織としてこれらの取組を進めて効果を上げていくためには、教職員が一つのチームとなる必要がある。そのためには、タイムリーな研修会を継続的に行い教職員のスキルアップが重要である。